

# 豊庄だより



第 707 号 2022 年 5 月 9 日

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達

「おい！練習、行くぞ！」T 中学校時代のことです（もう 30 年くらい前のことです）。声をかけた相手は、剣道部 2 年生の S 君。私はその時 1 年生の学年に所属していたのですが、いろいろと言いつくしては練習をさぼり続ける S 君を帰る前に捕まえようと思い、彼の教室の前で待ち構え、声をかけたのです。S 君は私の顔を見て、一瞬びっくりし「なんで先生がここにいるの？」という表情をしましたが、ここで逆らっても…と観念したのか、道場についてきました。道場につくと、部員たちが、「とうとう捕まったね」とささやいていました。それから、私もすぐに剣道着に着替え、防具をつけ、S 君とたっぷり練習をしました。S 君には 2 年前に卒業した兄がいて、彼も剣道部員でした。この学年は練習も熱心にしていましたが、実力もあり、県大会でも上位の成績を収めていました。弟のあまりのふがいなさに、兄から「先生、弟を何とかしてくださいよ〜」と、相談を受けたことがありました。お父さん、お母さんとも S 君のことで話すこともありました。親としては、男 2 人の兄弟をどうしても比較してしまうのでしょうか。S 君は小学校の時から剣道を始め（兄もそうでした）、中学校でも一生懸命練習をすれば、もっと力をつけることができるのにと常々思っていました、一つのことには打ち込めず、フラフラしてました。兄たちの学年が強く、自信をなくしていたのかもしれませんが、この時、半ば強引とも取れる方法で練習に連れて行ったのも、何かを変えたいと思ったからでした。今であれば、「ちょっとやり過ぎじゃない？」と受け取られるかもしれませんが、保護者とも日頃より話を重ね、信頼関係を築けていたからできたことだと思っています。

もう一人、紹介します（W 君とします）。H 中学校でのことです（15 年位前になります）。転勤をしてきた H 中の 1 年目。2 年の担任になりました。1 年の時の担任から「ちょっとやんちゃかもしれませんが、よろしくお願いします」と言われ、どんな子だろうと教室に入りました。すぐにわかりました。ふてくされているのか、足を投げ出しこちらに顔を向けません。授業が始まっても、集中しません（できません）。服装や髪もいろいろ「工夫」をしてきました。その都度、話をしましたが、一向に変わりません。そこで考えたのが、剣道に入部させることでした。「U 君も入っているけど、剣道してみないか？」と声をかけてみました。すると、「やってみようかなあ〜」という返事があり、気持ちが変わらないうちにと、すぐに保護者にも連絡し、道場に連れて

H 中 3 年 5 組（卒業式前日の写真）



て行きました。「今日から剣道部に入るようになった W 君です」と紹介しました。これまでの生活から、はじめには練習に来ないだろうと思っていたところ、意外にもほとんど休みませんでした。それからの 2 年間、卒業するまで剣道部員でした。2 年に引き続き 3 年でも担任をしました。卒業後も時々電話がありました。その時は何かある時で、相談に乗りました。その中でうれしかった

のは、彼の結婚式に呼ばれたことでした。あいさつの依頼があり、「何でも話すぞ」という条件で引き受けました。その後、子どもも生まれ、豊庄保育園にも見学に来てくれました。自宅から遠かったこともあり、入園しませんでした。もし彼の子どもが入っていれば、優しい私の姿を見せることができたと思います。

さて、最近の新聞に、「中学部活 地域で指導」というスポーツ庁の有識者会議の提言案が載っていました。長く中学校の剣道部の顧問をしてきたものとして複雑な気持ちになりました。（以下次号）